

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



5月の銅の概況及び6月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	10,000-11,000ドル	※
建値	115万円-125万円	※
為替	107~110円	円高
	(1か月間TTM)	

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると4月の自動車生産台数は前年比+64.8%の67万9,761台。輸出は+80.5%だった。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると5月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+30.9%の19万3,750台。

内訳は、乗用車が+34.1%、貨物が+15.5%、バスは-13.1%。

【住宅着工戸数】

4月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比7.1%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比0.3%の増加となった。

【伸銅品生産】

4月伸銅品生産量は前月比3.2%減少の6万7,661トン、前年同月比13.2%増加し、4か月連続増加。黄銅板以外13品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

銅条は、前年同月比11.2%増で7カ月連続プラス。

同月では前回好調だった2018年の実績を超えている。車載向けを含めて半導体ICの需要が好調である。ディスクリット(個別半導体)も回復してきて、自動車の新車生産台数増加に近いところで推移している。

一部の情報において、銅条の需要に対し、国内の銅条生産が追い付かず、逼迫しているとの観測があるが、銅条の顧客からもそのような話は出ていないと否定した。

黄銅棒は、前年同月比19.2%増加。

3ヶ月連続のプラス。

住宅設備関連の国内需要が緩やかに回復し、リフォーム向けの需要が伸びている。リモートワークや外出を手控えが長期化することに伴い、在宅時間が長くなり、自宅の修繕が増えていることが背景にありそう。

タッチレス水洗需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線】

前年比+3.6%の54,300 t。内訳は、国内が+3.1%、輸出は+31.8%。

【輸出】

電気銅輸出が-7.6%の3万9,853 t。

銅スクラップが+144.6%の4万5,820 t。

【輸入】

電気銅が+234%の3,671 t。

スクラップが+14.8%の10,094 t。

【見通し】

【自動車】

4月の自動車生産が+64.8%。5月国内販売台数が前年比+30.9%。生産急増は半導体不足の影響はないとの認識している。販売も幅増化。今後生産、販売共に増加していくか注視。

【伸銅品生産】

4月伸銅品生産量は前月比3.2%減少の6万7,661トン、前年同月比13.2%増加し、4か月連続増加。黄銅板以外13品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

【電線】

前年比+3.6%の54,300 t。内訳は、国内が+3.1%、輸出は+31.8%。久しぶりに内外とも増加。内外ともに今後もプラスが続くか注視。

・銅輸出は、電気銅が内需要因から増加。スクラップは外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は、電気銅が内需旺盛から急増。スクラップは内需回復から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が118万の高値安定から一転113万まで急落したタイミングで放出されたためある程度余裕あり。需要面に関しては、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく生産は急増傾向にある。しかし、原料高値安定のためメーカーはスポット買いに徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月も①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に関しては、バイデン米政権は28日、6兆ドル(約659兆円)規模の予算案を発表したことから米景気は回復傾向が続くのではないかと見られる。

経済や国民生活における連邦政府の役割を拡大させる方針で、インフラや公衆衛生、教育への支出を大幅に増やす一方、企業や富裕層への増税を求める内容となっている。

②に関しては、中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策や31日でSHFEは5月中国の公式購買担当者景況指数が製造業で51.0と前月の51.1からわずかに低下、原材料高騰が影響しているものと思われることからこれ以上の高騰には心理的ブレーキがかかるのではないかと見られる。

これらを踏まえた6月の銅価格は、10,000-11,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は107円~110円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては115万円-125万円程度と予測している。(「5月の銅の概況及び6月の見通し」終わり)